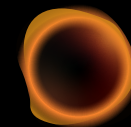




## White Paper: 大量のスタジオ撮影のためのツールと機能



CAPTURE ONE  
ENTERPRISE



# White Paper

## Capture One Enterprise

### 大量のスタジオ撮影のためのツールと編集

Capture One Enterpriseは、効率性が最優先される大量生産スタジオ向けに設計されています。

Capture One Proが提供する画像処理機能はそのままに、合理的なワークフローを実現するために特別に設計された追加機能が搭載されています。

Enterpriseユーザーには、拡張されたツールボックスと、ビジネスのやり方に合わせてカスタマイズできる自動化ソリューションが用意されています。

Capture One Enterprise専用のツールは以下の通りです。

1. Barcode Scannertool (バーコードスキャナーツール)
2. Advanced Guides (アドバンスドガイド)
3. Next Capture Backup (ネクストキャプチャーバックアップ)
4. Next Capture Keywords (ネクストキャプチャーキーワード)
5. Next Capture Metadat (ネクストキャプチャーメタデータ)
6. ToolLocks (ツールロック)
7. Capture Pilot, Enterprise (キャプチャーパイロットとエンタープライズ機能強化)
8. スタジオ専用ワークスペース

これらのツールは、自動化をユーザーケースの中心に据えて設計されています。

また、これらのツールは、スクリプト化することができ、ツール自体の能力の範囲を超えて、自動化されたワークフロー設計に組み合わせることができます。

さらなるワークフローの可能性を活用する方法については、各ツールをご参照ください。



# ワークフローの効率化のためにデザインされたツール

## 01. バーコード スキャナー ツール

画像ファイルに手動で名前を付けると、時間がかかり、エラーが発生しやすくなります。Capture One Enterprise 統合バーコード スキャナツールを使用すると、資産がキャプチャーされるときに、資産に迅速に名前を付けて正しく識別できるようになります。

このハードウェアとソフトウェアの統合は、時間を節約し、手動データ入力で発生する可能性のある人的ミス回避します。

バーコードツールは Next Capture Naming ツールと組み合わせて使用することを目的としていることをご留意ください。

スキャンしたバーコード ID は、キャプチャー中に作成されたイメージ名の一部として挿入する必要があります。

これは、Next Capture Naming ツールの命名構造の一部としてバーコード トークンを使用することによって行われます。

### バーコード ツールの注意事項:

すべてのバーコード スキャナは、Capture One Enterprise で使用する前に設定が必要です。

こちらの手順に従ってください。

### オートメーションのアイデア:

バーコード スキャンが完了すると、そのイベントは自動化されたワークフローをトリガーすることができます。これは、スキャンされた結果の値でフォルダを作成したり、カメラをトリガーしてキャプチャーしたり、ソースからデータを取得したり、特定のツールの設定をロードしたりすることです。



## 02. アドバンスド ガイド

ペースの速いeコマース環境では、フォトグラフィーチームが複数の商品を正確なレイアウトで撮影する必要があります。新しい高度なガイドツールを使えば、正確で再利用可能な構成を作成でき、時間の節約と一貫性の確保に役立ちます。

ガイドツールは、正しい構図を得るための補助として、ビューアで画像上にガイドを配置して表示することができ、テザー撮影時や画像のトリミング時に特に便利です。

ガイドツールは、%、px、mm、cm、inのいずれかの単位で特定の位置値を入力することで、ガイドラインを追加し、その位置を高い精度で調整できるように最適化されています。

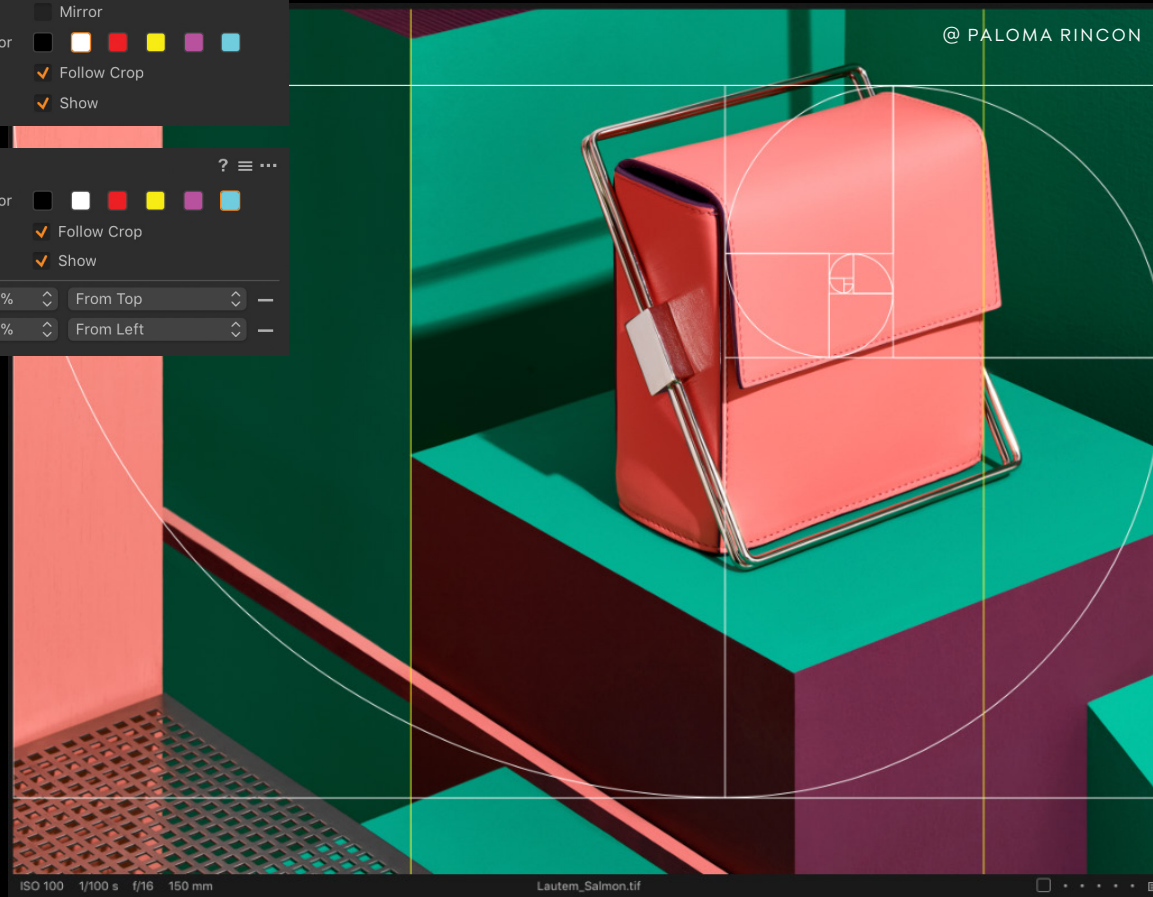
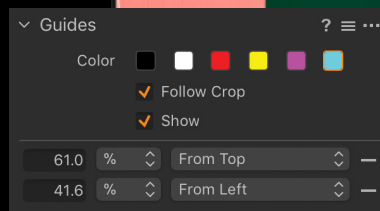
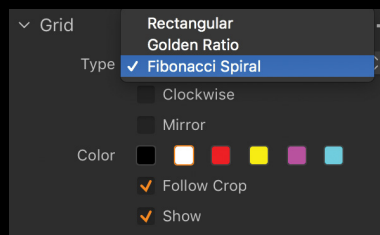
クロープに従う]オプションは、選択したクロープの内側にガイドラインを合わせ、クロープを再調整する際にそれに従います。このオプションを選択解除すると、選択したクロープに関係なく、ガイドラインが画像全体にフィットします。これは、クロープ時に画像の境界線に沿って視覚的な「安全地帯」を追加する素晴らしい方法です。

ガイドはエクスポートして、外部の画像編集アプリで再利用できます。画像をPSDファイル形式で書き出すと、ガイドがPhotoshopのガイドシステムに変換されるため、Capture One Enterpriseで追加したガイドを移動したり再調整したり、Photoshopでガイドの表示/非表示を切り替えたりできます。これは、メタデータとワークフローの下のプロセスレシピツールでガイドオプションを選択することで実行できます。

PSD以外のファイルオプションで画像を書き出す場合、[メタデータとワークフロー]の[プロセスレシピツール]で[ガイド]オプションを選択すると、ガイドが画像ファイルにベイク（フラット化）されます。

### オートメーションのアイデア

特定のワークスペース自動化の一部として展開する一連のガイドを設計します。



### 03. ネクスト キャプチャー バックアップ

テザーセッション中にキャプチャーした画像を自動的に別のドライブに複製する「ネクスト キャプチャー バックアップ」機能で、画像資産を失うリスクを回避できます。

「ネクスト キャプチャーバックアップ」を使用すると、Capture One Enterpriseは、テザーセッション中にキャプチャーしたすべての画像のバックアップを別のドライブに自動的に作成できます。また、このツールにはバックアップキューマネージャが内蔵されており、任意の時点でバックアップ手順を停止および再開できるため、Capture One Enterpriseを終了して再起動した後でもバックアップを継続できます。

ネクスト キャプチャーバックアップツールはセッションのみで動作します。これは、オリジナルのキャプチャ画像（RAW および/または JPEG）のみをバックアップするように設計されています。つまり、テザーキャプチャセッション中に適用された画像調整、メタデータ、キーワードは一切バックアップされません。

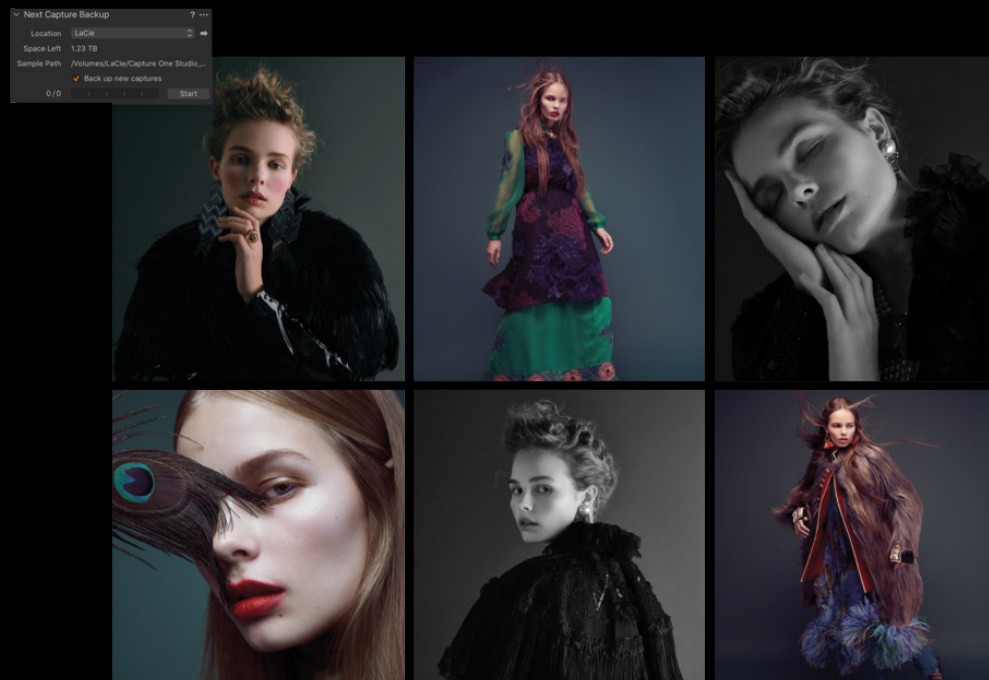
ただし、[ネクスト キャプチャーネーミング]ツールでキャプチャ画像に適用されたファイル名は、バックアップされた画像ファイルにも含まれることに注意してください。つまり、ネーミングスキームの一部として適用されたスキャンバーコードは、バックアップされたファイルのネーミングの一部にもなります。

そのため、バックアップされた画像ファイルに依存する必要がある場合に備えて、ネクスト キャプチャー ネーミングツールを使ってファイル名にショットの参照方法を含めることを検討する必要があります。

ネクスト キャプチャーバックアップツールは、キャプチャツールタブの下にあります。このツールは、カタログではなくセッションで動作するため、テザー撮影時にはセッションを実行していることを確認してください。

#### ネクスト キャプチャ バックアップの注意点

ネクスト キャプチャー バックアップツールは、キャプチャーフォルダ内に作成したサブフォルダのファイル構造を自動的にミラーリングします。たとえば、キャプチャーフォルダ内に「Product1」というサブフォルダを作成した場合（そしてこれをキャプチャー先フォルダに設定した場合）、すべての画像は「Product1」サブフォルダにもバックアップされます。これで、きれいに整理された状態を保つことができます。



MacのCapture One Enterpriseには、Apple Scriptを実行してワークフローをさらに自動化できるという利点があります。これらは、Next Capture BackupツールでApple Scriptが制御できるオプションです：

- 保存先フォルダの変更
- 次のキャプチャーの有効化/無効化 バックアップ
- キューの有効化/無効化

#### 自動化のアイデア

ワークスペース自動化の一部として自動バックアップルーチンを組み込みます。

## 04. ネクスト キャプチャー キーワード

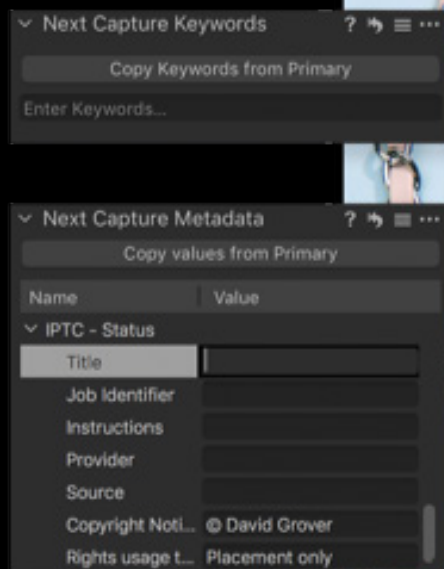
手動でキーワードを追加するのは時間がかかり、エラーが発生する可能性があります。このような事態を避けるため、次のキャプチャー キーワード ツールでは、次のキャプチャ画像に関連付けるキーワードを入力することができます。

この方法は、基本的に次の撮影を見越してキーワードのワークフローをフロントローディングするものです。これにより、キーワードを適用する前に画像をキャプチャしなければならず、後で間違った画像に間違ったキーワードを入力してしまうというミスが起こりやすいという問題を解決することができます。

ネクスト キャプチャー キーワード ツールでは、次にキャプチャする画像に関連するキーワードを入力できます。このツールは、キーワードツールと連動しています。ネクスト キャプチャー キーワード ツールにキーワードを入力し、画像をキャプチャすると、選択したキーワードが画像に適用され、キーワードツールに表示されます。

### オートメーションのアイデア

キャプチャーのたびに、Excelから画像上のキーワードとしてデータを読み込みます。



## 05. ネクスト キャプチャー メタデータ

ネクストキャプチャーメタデータツールを使えば、手作業によるデータ入力ミスが減らし、生産時間を短縮できます。関連するメタデータは、テザー撮影時に各画像に自動的に適用され、製品が最初から正しく分類されるようになります。

このアプローチは、基本的に次の撮影を見越してメタデータのワークフローをフロントローディングするものです。これにより、メタデータを適用する前に画像をキャプチャーしなければならず、後で間違った画像に間違ったメタデータを入力するミスが起こりやすいという問題を解決できます。

メタデータワークフローをフロントローディングすると、ネクストキャプチャーネーミングツールを使用したキャプチャー中に、入力したメタデータをファイル名の一部として使用することもできます。

このワークフローは、ネクストキャプチャーネーミングツールに目的のメタデータトークン(説明やカテゴリなど)を挿入することで実行されます。これにより、キャプチャー段階でファイルに正確に名前を付ける強力な方法が開かれます。

### ネクスト キャプチャー メタデータの使用

ネクストキャプチャーメタデータツールでは、ネクストキャプチャーイメージに関連付けるカラータグ、レーティング、およびメタデータを入力できます。このツールは、メタデータツールとまったく同じIPTCフィールドをサポートしています。ネクストキャプチャーメタデータツールに必要なメタデータを入力し、画像をキャプチャーすると、選択したメタデータが画像ファイルに適用され、メタデータツールに表示されます。

Capture One Enterpriseには、すべてのメタデータ(テキスト)フィールドのテキスト補完機能があり、ソフトウェアが各フィールドに以前に入力したテキストを記憶します。フィールドのテキストを編集しているときに、以前に入力したテキストがポップアップリストに表示されます。リターンキーを押してテキストを選択します。

注意：キャプチャー中にカメラが自動的にメタデータを適用した場合、それを維持するか、上書きするかを選択できます。

メタデータフィールドを空にすると、カメラの値が使用されません。

一方、テキストを入力すると、カメラの値が上書きされます。

オートメーションのアイデア：

Excelからデータ行をロードし、値をツールにマッピングして、次のキャプチャーに備えます。



## 06. ツールロック

ワークフローのニーズに合わせて特別に設計されたEnterpriseワークスペースのオプションは、変更を防止し、一貫性のある効率的なワークフローのために作業方法を標準化するためにロックすることができます。

Capture One Enterpriseには、特定のツールをロックする機能があり、多忙な撮影中に誤って変更されることはありません。また、ロックシステムにピンコードを割り当てることも可能で、担当の管理者またはフォトグラファーが、アシスタントによるツールのロック解除や重要なキャプチャプロパティの変更を防止できます。以下のツールをロックできます。

Capture Tools:

- カメラ+カメラ設定 (ライブビューボタンとキャプチャボタンを除く)
- Camera Focus (カメラフォーカス)
- Next Capture Adjustments (ネクスト キャプチャー アジャストメント)
- Next Capture Keywords (ネクスト キャプチャー キーワード)
- Next Capture Location (ネクスト キャプチャー ロケーション)
- Next Capture Metadata (ネクスト キャプチャー メタデータ)
- Next Capture Naming (ネクスト キャプチャー ネーミング)

ワークフロー ツール:

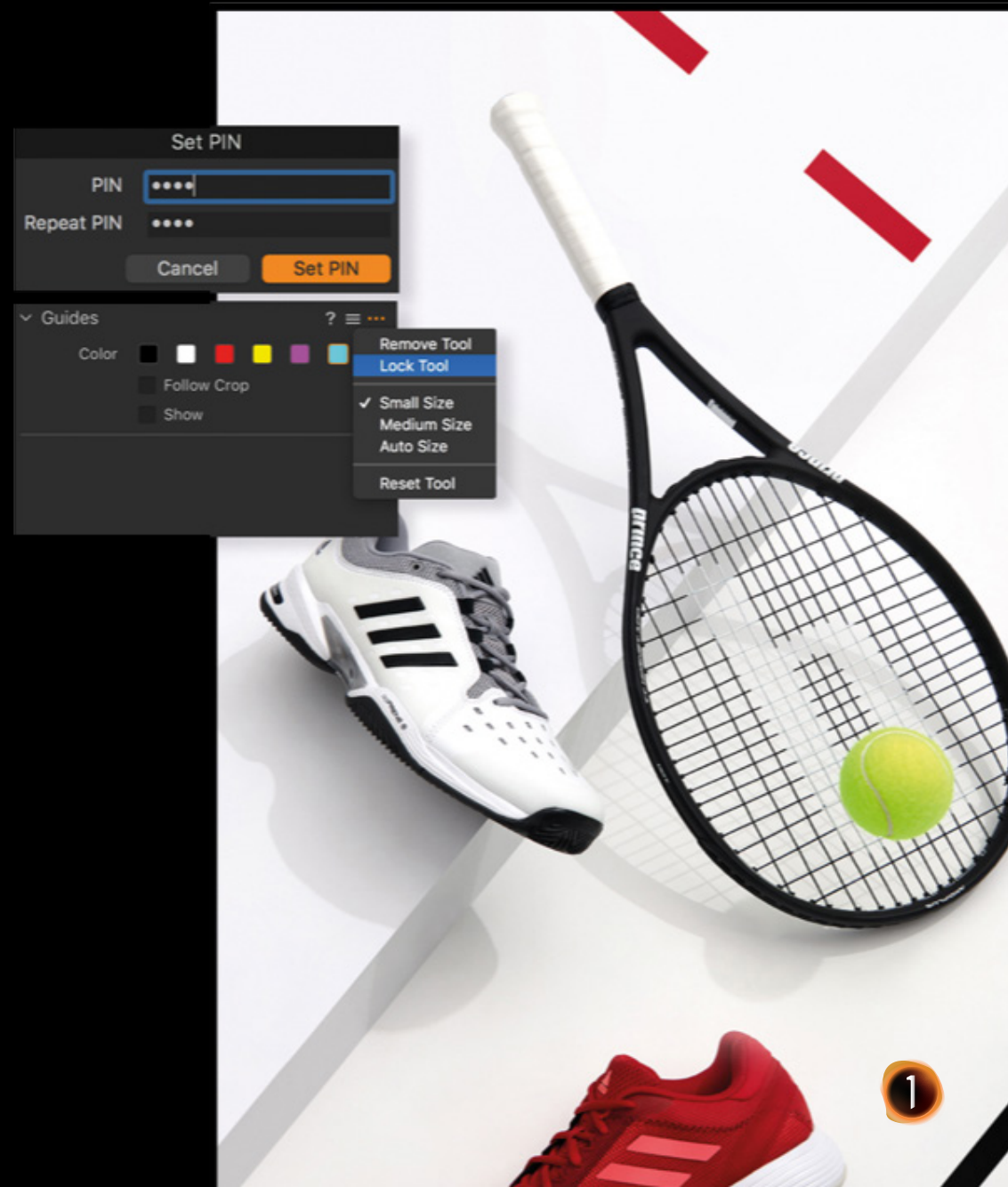
- ガイド

アウトプット ツールズ:

- **Process Recipe** (プロセス レシピ)
- **Process Recipes** (プロセス レシピズ)
- **Output location** (アウトプット ロケーション)
- **Output Naming** (アウトプット ネーミング)

オートメーションのアイデア

一時的なワーカー向けに設計された「役割」ワークスペースの一部としてロックを導入します。







## 07. キャプチャーパイロットにエンタープライズ機能を追加

iOSデバイスのCapture Pilotは、画像の再撮影、レーティング、タグ付け、合成に役立つ貴重なツールです。さらに、iOSアプリの画面に表示される画像の上に、オーバーレイ、グリッド、ガイドを追加表示するオプションなど、Capture One Enterpriseを使用する際の高度な機能を備えています。

オーバーレイ、グリッド、ガイドは、アプリの画面下部にあるアイコンをタップすることで、Capture Pilotアプリでオン/オフを切り替えることができます。

アプリでの表示はCapture One Enterprise Overlay、Grid、Guidesが有効かどうかとは無関係に制御されます。つまり、Capture One Enterpriseではオーバーレイやガイドが非表示でも、Capture Pilotアプリでは表示されたり、その逆も可能です。

この機能を有効にするには、Capture Pilotアプリ（バージョン2.2.x以降）をアップデートする必要があります。また、Capture One Enterpriseは、関連ツールでオーバーレイ、グリッド、ガイドを制御します。接続されたデバイスでオーバーレイ、グリッド、ガイドを変更することはできません。

### オートメーションのアイデア

Capture Oneワークフローに自動化されたガイドを、パイロットプレビューでミラーリングして表示し、QA効果をさらに高めます。



## 08. スタジオ専用のワークスペース

特別に設計されたEnterprise Workspaceオプションは、ワークフローのニーズにマッチし、変更を防止し、一貫性のある効率的なワークフローのための作業習慣の標準化を支援するためにロックすることができるようになりました。

新しいEnterprise ツールを搭載したワークスペースは、メニューから[ウィンドウ] > [ワークスペース]を選択して見つけることができます。

Enterpriseには、編集、レート、レビュー、およびテザーキャプチャー用に特別に設計された3つのワークスペースが同梱されています。